

『常陸大宮アクションミーティング2009』【活動報告会】

2月8日、市と茨城大学の連携事業の一環として、茨城大学の学生によるはじめての報告会が、市文化センターで行われました。

第一部は、2008年度に行った西塩子の回り舞台のボランティア活動や、おがわふれあいの森の中でのスズメバチの研究などについて、6組が報告しました。



また、第二部では、中心商店街を歩き、身近な自然や歴史を再発見することによる活性化プランや、下町の甲神社を中心とした歴史と、甲から連想した「子供の目」とを組み合わせた各種イベントの開催プラン、他の商店街での先進的な事例などについて、4組が発表しました。

学生からの熱の入った報告や発表を受けて、会場から多くの質問が出され、学生と参加者による今後のまちづくりに関する活発な意見交換が行われました。

第1部 2008年度活動・研究報告

◆ボランティア

- ・「国際交流プログラム通訳ボランティアを担当して」
- ・「西塩子回り舞台 組み立て・公演ボランティア」

◆研究

- ・「ふれあいの森のスズメバチ」

◆卒業論文

- ・「伝統芸能による地域振興の可能性
～西塩子の回り舞台に関する事例研究～」
- ・「都市農村交流の有効性と団塊世代の可能性」
- ・「交流人口拡大の可能性～茨城県常陸大宮市の事例～」



第2部 常陸大宮中心商店街活性化プラン提案

◆「5！5！（GO!GO!）常陸大宮！」

◆「常陸大宮活性化への提案とそのプロセス」

◆「歩こう、わくわく発見の道」

◆「先進事例から考えるこれからの常陸大宮商店街」



～常陸大宮アクションミーティング2009に参加して～

茨城大学人文学部4年 森戸佳奈子さん（野口平）

私は地域社会論ゼミで学んだ知識をいかし、自分の生まれ育った地域に恩返しをしたと思い、「交流人口拡大の可能性～茨城県常陸大宮市の事例～」というテーマで卒業研究に取り組みました。市の現状や課題を知るため、行政や市民の方々にヒアリングを行い、都市農村交流専用のHPの創設など、課題解決のための政策提案をまとめ、今回、研究成果の報告を行いました。

当日は、市に関する研究を行っている他の学生の話を知ることができ、常陸大宮市について違った角度から考えることができました。茨城大学には、県内外を問わずさまざまな学生がいるので、このような機会は常陸大宮市をアピールするきっかけにもなります。市と茨城大学との連携が続き、さらに展開していくことを願っています。

これからも常陸大宮市に住む者として地域に寄り添っていきたくて考えています。

